朝日新聞が2月24日付けで伝えたところによると、グーグルが、日本でも2010年秋にも電子書籍（eBook）「グーグル・エディション」の販売に乗り出すという。これは、同社幹部が2月23日、朝日新聞に対して明らかにしたもので、PCや電子書籍専用端末を使って本の内容が読めるようになるという。日本以外にも、米、英、フランス
など9カ国でサービスが展開されるといい、販売タイトル数は全世界で200万規模にのぼる見通しとのこと。

「グーグル・エディション」では、グーグルのサイトに接続して購入すれば、いつでも電子ブックを読むことができる。日本国内では、「複数の
大手出版社が前向きになっている」（同社日本法人の担当者）とされ、PHP研究所は当初、著者の了解を得た作品1000タイトル程度を提供する予定という。

2010年秋というからには、9月か10月ごろのスタートになるのだろうが、それまでには、先行しているアマゾンのキンドルが、日本語対応をしている可能性がある。また、アップルのiPadが発売されているわけだから、いずれにせよ、今年の秋は、日本の電子書籍は大きなターニングポイントを迎えることになる。